

## 第 3 回 木曾川・笠松エリア利用調整協議会 結果概要

### I.開催日時

令和 4 年 5 月 27 日（金）10：00～12：00

### II.会場

笠松町役場 4 階 大会議室

### III.次第

1. 開会  
あいさつ 笠松町長 古田 聖人
2. 委嘱状交付
3. 第 2 回協議会の意見確認【資料 1】
4. 議事
  - (1) 社会実験のふりかえり【資料 2～3】  
結果・課題整理など
  - (2) 次回の社会実験について【資料 4】  
目的・方針・内容・参加形態・実施時期など
  - (3) 都市・地域再生等利用区域の申請について【資料 5】
5. その他
  - (1) 次回の予定

### IV.出欠状況

以下のとおりであった。なお、古田聖人町長の出席も得た。

表 第 3 回木曾川・笠松エリア利用調整協議会出欠状況

#### 【委員】

区分	選出団体	役職等	氏名	出欠
学識経験者	岐阜大学 流域圏科学研究センター	准教授	原田 守啓	○
地域代表	笠松町町内会連合会	会長	山田 忠正	×
各種団体	笠松町商工会	副会長	加藤 大武	×
	オアシスパーク	取締役統括本部長	松永 武久	×
	十六銀行笠松支店	支店長	川合 毅	○
	笠松競馬場	参与	坂本 浩之	○
	笠松町プロモーション協会	副会長	市川 幸一郎	○
	笠松みなと公園 SUP 同好会	管理者	塚本 幸典	○
	かさまつバザール	代表	柚木 那実	○
行政	笠松町商工会	青年部部長	名和 佑樹	○
	笠松町議会	議長	川島 功士	○
	笠松町	副町長	川部 時文	○

#### 【オブザーバー】

区分	選出団体	役職等	氏名	出欠
行政	木曾川上流河川事務所	事業対策官	上野 好隆	○

【事務局】笠松町企画環境経済部企画課

【公園管理担当課】建設部建設課

※. 敬称略

### V.配付資料

配付資料は以下のとおりであった。

- ① 次第
- ② 委員名簿
- ③ 配席表
- ④ 資料 1 第 2 回協議会意見対応方針
- ⑤ 資料 2 社会実験実施概要
- ⑥ 資料 3 社会実験検証結果
- ⑦ 資料 4 令和 4 年度社会実験の実施方針
- ⑧ 資料 5 都市・地域再生等利用区域指定の申請方針案
- ⑨ 補足資料 1 ホームページアクセスログの分析
- ⑩ 補足資料 2 利用者アンケート結果概要

VI. 結果概要

以下のとおりであった。

表 第3回 木曾川・笠松エリア利用調整協議会 協議結果の概要

項目	決定事項	
事務事項		
委嘱等	・新規および交代の委員への委嘱が行われた。	
第2回協議会意見	・第2回協議会における委員からの意見とその対応について了承を得た。	
議事内容	委員意見	対応方針
(1)社会実験のふりかえりについて	・「かさまつ minaTRY」と「かさマルシェ」などの比較により、河川敷を使っていく上での特性がみえてくるのではないかと。	・今後、それぞれの特性を比較し、河川敷の活用方法の検討に反映する。
	・アクティビティ系は、採算面では課題があった（ただし、当初から想定もしていた）が、どのコンテンツも楽しんでいただくことができ、今後の可能性を把握できた。	・需要としては把握できたが、今後の活かし方を検討する。
	・飲食系も好評を得ることができ、ニーズがあることを確認できた。	
	・飲食系は、売上については、平日はやはり少なかったが、全体的には採算性は比較的確保された。	・飲食系の強みが把握できたため、今後の公園の日常利用へ活かしていくことを検討する。
	・飲食系（キッチンカー）は、出店者が「笠松みなと公園」の利点を認識しており、今後も出店を得ることは可能とみられる。	
	・出店者の負担が少ないと出店しやすい。	
	・アクティビティ系・飲食系とも天候の影響は大きかった。	・天候については対応が難しい面があり、時間変更や中止等の情報提供のあり方を検討する。
	・天候等による急な中止や時間変更を、どう効果的に周知するかが課題である。	
	・運営体制づくりも季節や時期によって変えてみるというのも実験できると良い。	・長期間の社会実験をすることで、今後のヒントを把握していく。
	・安全に開催できるかどうかを判断する責任者の配置も必要である。	・河川敷という特性を踏まえ、事業化に向けて安全管理のあり方と運営側への普及を図る。
	・事業を実施していく上での拠点があると良い。	・管理棟の活用や、将来的には新設を検討することも視野に入れる。
・駐車場については、集客とキャパシティがほぼ均衡した状況であった。	・実施内容による誘客力とのバランスを検討していくことも必要である。	
・コンテンツと季節等の適切な組合せをしていくことが、利用確保のために重要である。	・長期間の社会実験をすることで、季節別の需要の把握を試みる。	
(2)次回の社会実験について ①実験計画について	・実験計画について了承を得た。	・実験計画を進めていく。
	・運営体制づくりが重要で、その体制には河川敷という特性から安全管理や開催判断可能な機能をもたせることも必要である。	・河川敷という特性を踏まえ、事業化に向けて安全管理のあり方と運営側への普及を図る。
	・天候による中止の周知も含めた情報発信の点からも、現地に拠点があると良い。	・実際の現地状況の把握も可能なよう、拠点のあり方を検討していく。
	・コンテンツ相互の日程や実施時の連携ができると良い。	・運営体制側の統括事項として取り組んでいくことを検討する。
②取組の方針	・冬場に特定の位置から見える雪山、名鉄の鉄橋のように、ピンポイントなことでも資源として活用できる可能性があり、取組の方針として必ずしも大きなこととして利用者を一気に増やす必要はない。	・様々な需要があることを認識し、多様な資源の発掘と活用を河川敷に導入することを検討する。
(3)都市・地域再生等利用区域の申請について	・今年度の社会実験を踏まえ、年度末から来年度の初頭に申請することで了承を得た。	・前年度と今年度の社会実験結果を反映し、申請する。
	・既存の取組との関係も整理するのも、今後の事業推進上重要となる。	・町による他事業等との関係を整理していく。